

天敵・訪花昆虫に影響の少ない脱皮阻害型殺虫剤(IGR剤)

カウンター乳剤

殺虫剤



カウンターはマクテムケミカルワークス社の登録商標です。

POINT 1

高い効果と
優れた効果
持続性!

POINT 2

散布翌日に
ハチの
導入OK!!

POINT 3

天敵への
影響が
少ない!

いちご

ミカンキイロアザミウマ
2000倍/収穫前日まで/4回以内



散布翌日に
ハチの
導入OK!



なす



なすの害虫を総合防除!
ハモグリバエからコナジラミまで。
コナジラミ類、オオタバコガ、
ハモグリバエ類、ハスモンヨトウ
2000~3000倍/収穫前日まで/4回以内

きく



難防除害虫
ミカンキイロアザミウマ
ウイルス病対策に!
ミカンキイロアザミウマ
2000倍/発生初期/5回以内

キャベツ



ハスモンヨトウ対策に!
優れた効果と持続性で
りん翅目害虫を長期間抑制!
コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、
ハスモンヨトウ
2000~3000倍/収穫7日前まで/3回以内



アオムシ



コナガ



ヨトウムシ



ハスモンヨトウ



ハモグリバエ類



コナジラミ類



オオタバコガ



ミカンキイロアザミウマ

天敵・訪花昆虫に
影響の少ない脱皮阻害型
殺虫剤(IGR剤)

カウンター乳剤

殺虫剤

農林水産省登録 第21303号
成分:ノバルロン……8.5%
性状:黄色澄明可乳化油状液体
カウンターはマクテムケミカルワークス社
の登録商標です。

◆優れた効果と効果持続性！

- 難防除害虫のミカンキイロアザミウマ、ハモグリバエ類、コナジラミ類(タバココナジラミ、オンシツコナジラミ)にも高い効果。
- ミカンキイロアザミウマや大型りん翅目害虫(オオタバコガ、アオムシ、ハスモンヨトウなど)に対して約2~3週間の優れた持続性が期待できます。

◆散布翌日にハチの導入OK!!

- ミツバチおよびマルハナバチの訪花活動に影響を与えません。



- 使用場面を選びません。
※ハチへの影響は、ミツバチ・セイヨウマルハナバチでの試験結果から判断しております。

◆天敵への影響が少ない！

- 影響の無かった天敵
オンシツツヤコバチ、ハモグリコマユバチ、コレマンアブラバチ、チリカブリダニ、ウズキコモリグモ 等



- IPM(総合的病害虫管理)にも活用できます！
※タイリクヒメハナカムシの若齢幼虫に対して、他のIGR剤同様に若干の影響が認められております。タイリクヒメハナカムシを導入している、もしくは導入する予定がある場合は、必ず病害虫防除所等関係機関の指導を受けた上でご使用ください。

上手な使い方 散布適期:卵~若齢幼虫期

【発生初期からの徹底防除が重要！】
カウンター乳剤の優れた効果持続性を活かし、「害虫の密度が低い時期」から防除を開始。
※速効性の薬剤をイザという時まで温存しておくことも重要です。

【既に密度が増加している場合】
成虫に効果の高い速効性の薬剤により害虫を一掃。その後、カウンター乳剤を活用し、低密度のまま維持しましょう。
※特定の薬剤に頼り過ぎは禁物。ローテーション散布で抵抗性の発現を回避しましょう！

- ◆葉裏までムラなく散布しましょう。
※本剤に浸透移行性はありません。新しく展開した葉には散布が必要です。展葉速度に応じて散布間隔を調節して下さい。
- ◆状況に応じて速効性の薬剤、成虫に効果の高い薬剤と上手に組み合わせましょう。

適用害虫と使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ノバルロンを含む農業の総使用回数
キャベツ	コナガ、アオムシ ヨトウムシ、ハスモンヨトウ	2000~ 3000倍	100~ 300g/10a	収穫7日 前まで	3回以内	散布	3回以内
なす	コナジラミ類、オオタバコガ ハモグリバエ類、ハスモンヨトウ			収穫 前日まで			
トマト	コナジラミ類、オオタバコガ ハスモンヨトウ			1番花の 開花まで			
ミニトマト	ハモグリバエ類 ミカンキイロアザミウマ	2000倍		収穫 前日まで	4回以内		4回以内
ピーマン	オオタバコガ	3000倍		収穫 前日まで			
いちご	ミカンキイロアザミウマ	2000倍		発生初期	5回以内		5回以内
てんさい	ヨトウムシ	2000~ 3000倍	収穫7日 前まで	2回以内	2回以内		
	カメノコハムシ、アシグロハモグリバエ	3000倍					
きく	ミカンキイロアザミウマ	2000倍					

△効果・薬害等の注意

- 本剤の所定量を所定量の水にうすめ、よくかきまぜてから散布する。
- 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布する。
- 本剤は植物体上での浸透移行性がないため、葉裏にも十分かかるように散布する。
- 本剤は幼虫の脱皮を阻害して死亡させる性質を持つ薬剤であるので、幼虫期になるべく早く散布する。
- 蜜に対して長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し付近の蜜に付着するおそれのある地域では使用しない。
- 本剤の抵抗性の発達を防ぐため、作用性の異なる他剤との体系散布を行う。
- トマトの果実には薬害の生じるおそれがあるので、開花の始まったほ場又は施設等では散布しない。

- ピーマンに使用する場合、他の農薬と混用又は展着剤等を加用すると、薬害を生じるおそれがあるので、混用は避ける。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

△安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮ふに対して刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長スボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換する。

- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 魚毒…(1)水産動物(甲殻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
(2)使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切る。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 危険物第四類第三石油類に属するので火気には十分注意する。
- 火災時は、適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努める。
- 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収する。
- 移送取扱いは、ていねいに行う。

保管…火気や直射日光をさけ、食品と区別して、低温で子供の手のとどかない場所に密栓して保管する。

- ラベルをよく読む。●記載以外には使用しない。●小児の手の届く所には置かない。●洗浄水はタンクに入れる。●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理する。
- この印刷物の記載内容は2009年3月現在のものです。